和歌山県立医科大学
法医学講座

沖縄戦没者遺骨収集事業に参加して

和歌山県立医科大学　医学部

宗川桃子（５年）平林香凛（４年）下枝ゆり（３年）

野一色郁武（３年）畑野芳祐（２年）

和歌山県立医科大学　保健看護学部

吉永悠人（１年）

沖縄戦没者遺骨収集事業とは

沖縄は太平洋戦争の末期に激しい地上戦が行われた場所であり，地上戦では日米合わせて約200,000人が亡くなったとされている．そして終戦から81年たった今も2,600柱以上もの遺骨が発見されていないと言われている．



拡大



出典：沖縄市役所「沖縄戦の実相」
（https://www.city.okinawa.okinawa.jp/k015/shiseijouhou/gaiyou/hewajigyou/heiwanohi/2524/2526.html）

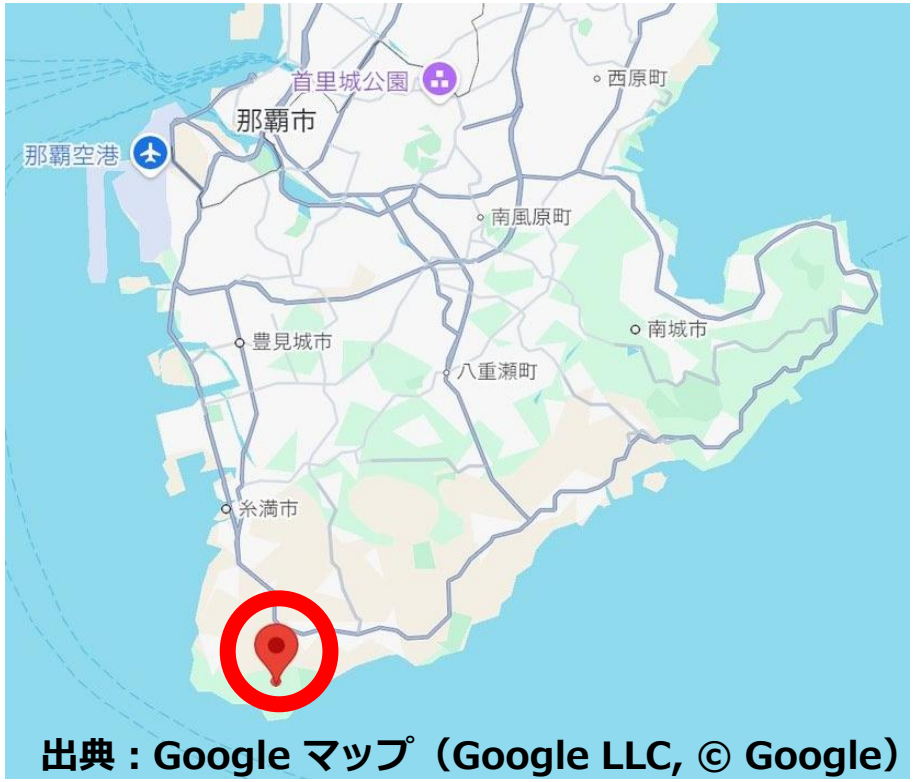
遺骨収集の概要

- 日本法医病理学会は地元ボランティア団体「ガマフヤー」からの依頼により，2018年から本事業に参加．法医学は，遺骨収集において形質鑑定やDNA鑑定による身元確認を行うなどで重要な役割を果たしている．
- 今回は大学院準備課程として法医学を専攻している学生3名含め6名の学生が参加させていただいた．また，今年は日本法医病理学会の先生方や他大学の学生も合わせ35名が参加した．

遺骨収集の概要

日時：2026年8月16日

場所：沖縄県糸満市束里



出典：Google マップ（Google LLC, © Google）

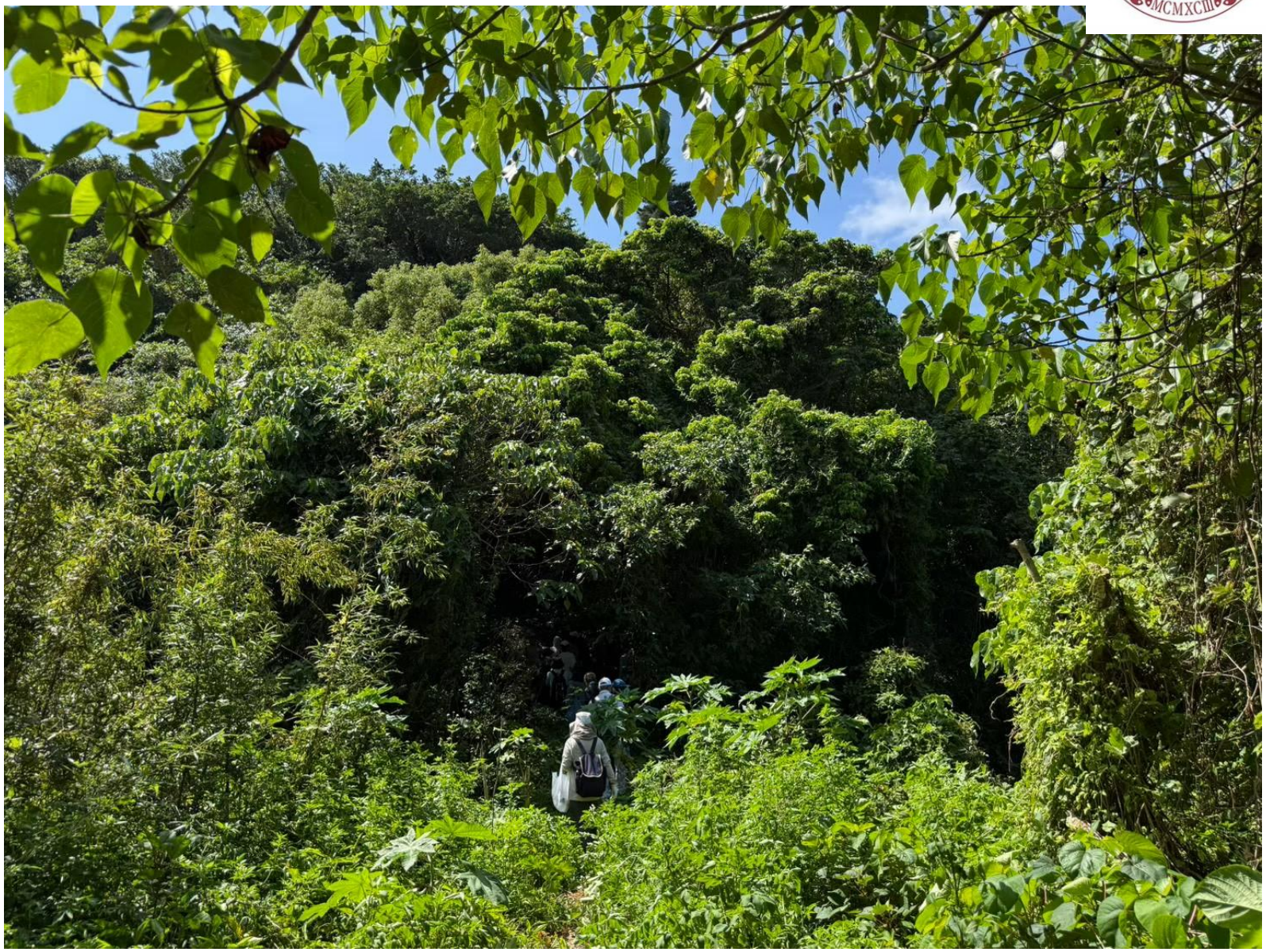


遺骨収集の参加者

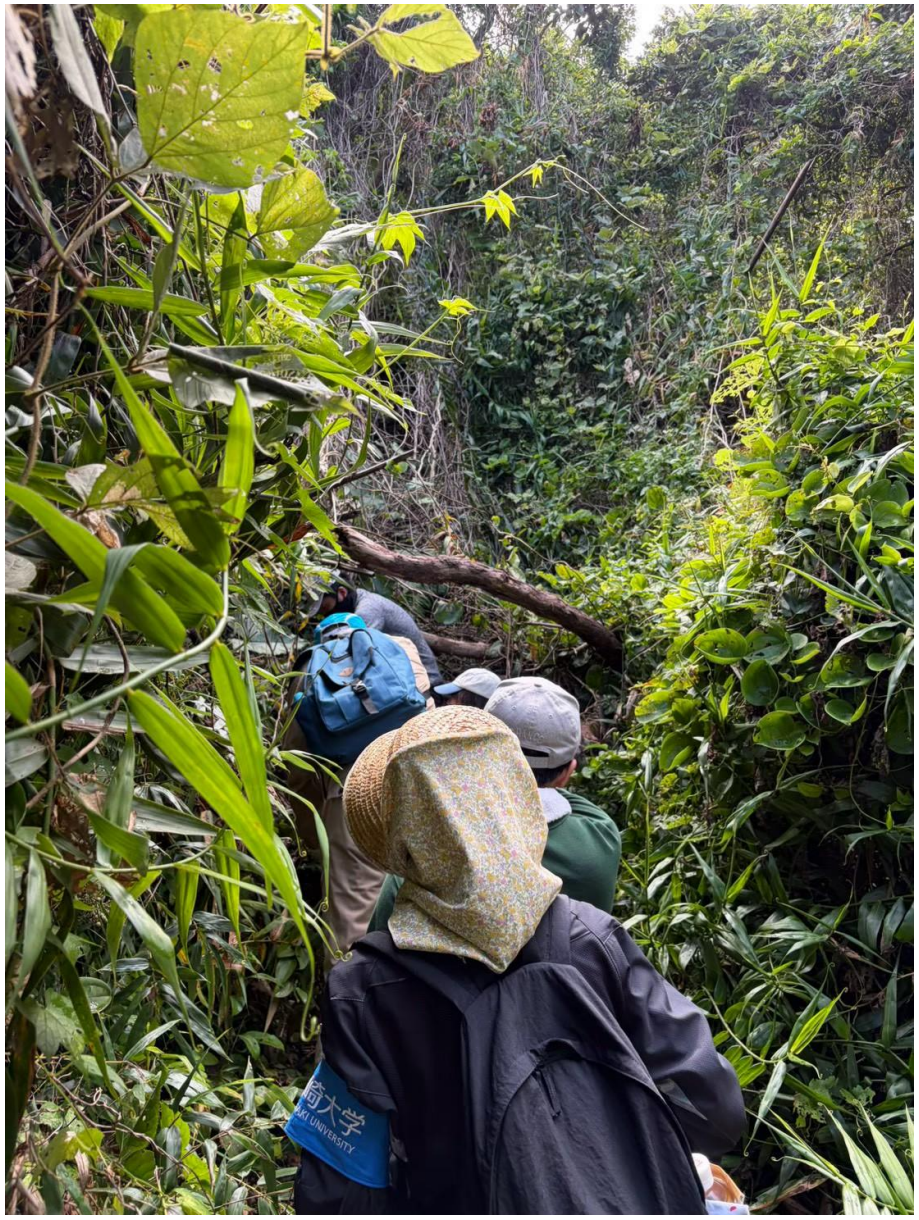
- 和歌山県立医科大学　客員教授１名・教授３名・他７名
- 長崎大学　教授１名・他５名
- 香川大学　教員１名
- 久留米大学　教授１名
- 自治医科大学　教授１名・他２名
- 日本歯科大学　教授１名
- ちゅうざん病院　病院長（本学名誉教授）・他１名
- ボランティア　10名

収集現場への道のり





収集現場への道のり





収集現場の様子





ふるいを用いて

採集された遺骨・遺留品

昨年の埋葬骨の一部に加え，骨片と遺留品を発見

遺骨

- 舌骨（埋葬骨由来）
- 下肢の骨の一部（埋葬骨由来）
- 歯を含む下顎骨
- 歯（犬歯・臼歯）
- 頭蓋骨の一部
- 手指骨・肋骨

遺留品

- 小銃の薬莢
- 手榴弾の安全レバー
- 電話器・防毒マスク
- 腕時計・指輪・ボタン
- 薬液ビン
- 茶碗・万年筆

昨年発見された全身の埋葬骨



埋葬骨由来と思われる骨片①

舌骨体部（約21mm）

前面



後面



舌骨による簡易的な年齢推定

若年者の舌骨　埋葬骨と同一人物と推察



舌骨体部

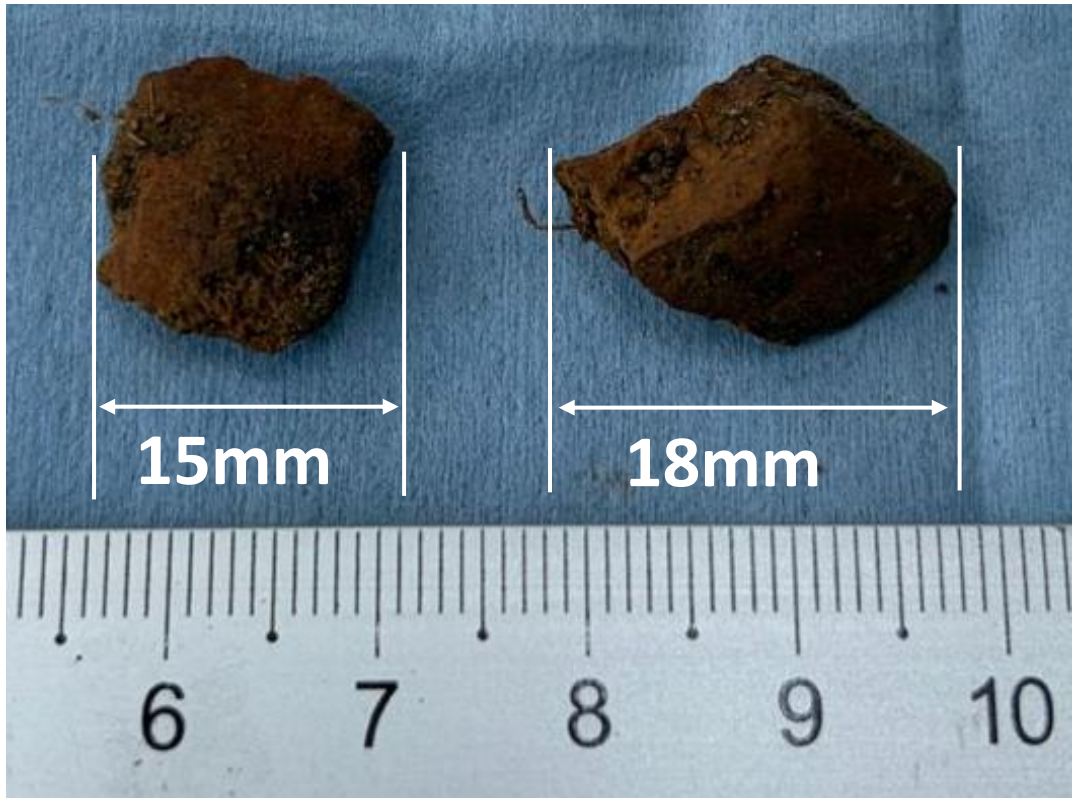
舌骨体部と大角は通常若年において軟骨で接合されており加齢とともに癒合する.
発見された舌骨は両側とも大角が無く，割れた形跡も確認できず.

⇒ 軟骨接合部が融解し切り離されたと推定（比較的若年である可能性）

埋葬骨由来と思われる骨片②

大腿骨・脛骨の近くの骨片（約1.5～1.8cm）
⇒ 足根骨や膝蓋骨の可能性

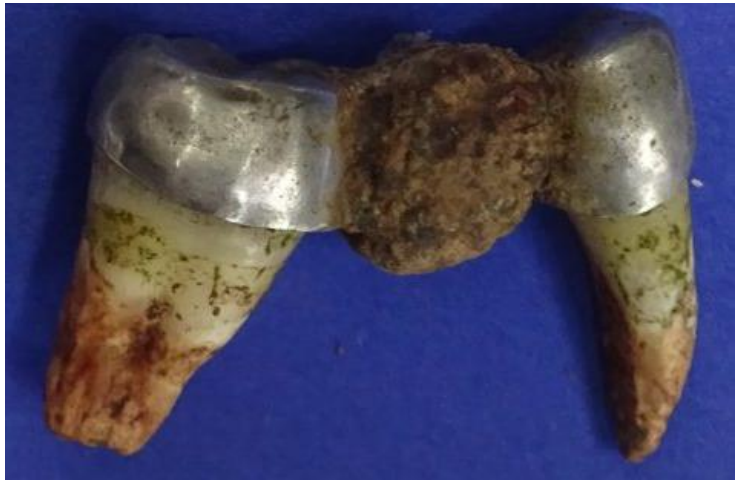
発見された骨片



歯牙と下顎骨

治療痕のある歯牙と，付随する下顎骨

治療痕のある歯牙



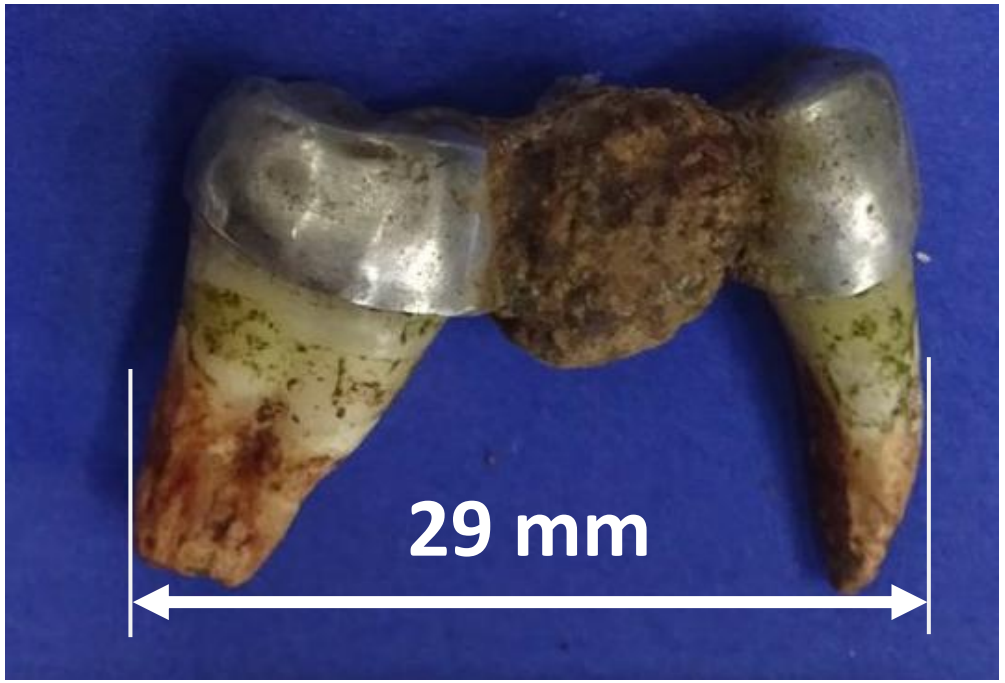


下顎骨の一部



歯の治療痕について

- 第三大臼歯まで萌出 → 成人
- 銀色部分はニッケルクロム合金で作られている
- 金属が不足していた戦時中の地方や日中戦争後には困難な治療
- 海軍の軍艦内で治療が行われていたとの記録あり



都市部や日中戦争以前の治療か，相応の地位の軍人の可能性

犬歯および第3大臼歯





歯冠と歯根が欠損し，幅は約7mm

⇒ 形状から犬歯と大臼歯と予想されるが，動物の歯牙である可能性も考えられる

自然洞窟（ガマ）



ガマで見つかった頭蓋骨片

頭蓋骨片（外板側）



（内板側）



■ 内板側の血管溝に沿って中硬膜動脈が走行する

遺留品（銃火器）

日本軍の小銃の薬莢





安全レバー



火炎放射の痕



- 使用済み，未使用を含む薬莢が各所で発見された
- 手榴弾は米国製で通称「パイナップル」

  米軍を中心に第二次世界大戦において広く使用

遺留品（腕時計・指輪・ボタン）







- 腕時計は日本軍の支給品とみられる
- 指輪は指の骨の近くで発見　⇒ 身につけたまま亡くなった可能性が高い
- ボタンは樹脂製（当時は金属不足）

遺留品（薬液ビン）

薬液ビン

■ 薬液は当時殺菌・消毒に
用いられたヨードチンキなど



ヨードチンキとは

ヨウ素の強い殺菌作用を利用した消毒液で主に皮膚の消毒に用いられる．通称「ヨーチン」．

戦争の記憶の継承

翌日，参加者全員による遺骨収集報告会を終えた







「沖縄戦の絵」展

遺骨収集結果

■ 昨年度の埋葬骨由来の骨片に加え，

３～４柱の遺骨と日本軍の遺留品を発見

■ 今後は収集場所（現場）の保存についても模索

活動を終えて

■ 作業中に感じたこと

腕時計や茶碗などの生活用品から一人ひとりの人間の存在を感じ，
蒸し暑さと山深さに地上戦の過酷さを想像した.

■ 医学・法医学的見地から

断片的な遺骨の同定は難しく，知識を応用する力の必要性を痛感した.
遺骨は一人ひとりの人間の身体である.

■ 戦争の記憶の継承

現地のボランティアの方のお話を伺い，戦争の記憶が薄れる事への
危機感を感じた.　「犠牲者○○人」の一人ひとりにあった人生を次の
世代へ伝えたい.

沖縄戦で尊い命を落とされたすべての方々に謹んで

哀悼の意を表します

謝辞

本報告にあたり，ガマフヤー代表具志堅隆松氏，
参議院議員秋野公造先生，および
日本法医病理学会の先生方ほか多くの関係者の皆様より
多大なるご支援をいただきました.
ここに深く感謝申し上げます.　　学生一同





ご清聴ありがとうございました



